

小中学校のGIGAスクール構想（※1）の進捗状況は



辻 史子

公明党田原市議員

1人1台のタブレット端末を本年12月の設置を目指している

GIGAスクール構想の早期実現について

問 小中学校のGIGAスクール構想の進捗状況は。
答 全ての児童生徒1人1台のタブレット端末を使って学習に取り組めるよう準備している。当初の予定を前倒しし本年12月の設置。また、校内の通信環境の整備については早期の着工を目指している。

問 家庭でもつながる通信環境の整備状況とその対策は。
答 各家庭の通信環境の状況については現在調査中であるが、未整備の家庭を3%程度と見込んでいる。未整備の家庭に対しては、整備の必要性を理解していただくとともに、各家庭の状況に応じて丁寧に対応していく。

問 実際の授業で1人1台のタブレット端末を持つことでどのような効果が期待できるか。

答 コンピューター室でしか操作出来なかったパソコン機能を自分の手元で活用できることで、調べ学習が大きく向上する。そのほか、プログラミング学習（※2）がより身近になったり、児童生徒の学習状況を教師が把握しやすくなり、個に応じた指導が一層充実したりすることも期待している。

問 通信費の取り扱いについて、家庭の経済格差が教育格差を拡大させないようにしていただきたいが、市の考えは。

答 要保護家庭・準要保護家庭の対応については、国の動向を見据え、方針が示されたときにその趣旨を踏まえ対応を決める。



※1 GIGA（ギガ）スクール構想

児童生徒1人1台の端末配備と、学校内に高速大容量通信ネットワークを整備し、個別最適化された学びを持続的に実現する文科省の構想。

※2 プログラミング学習（プログラミング教育）

2020年度4月から全国の小学校でプログラミング教育が必修化された。コンピューターを動かす体験から課題解決の道筋を論理的に考える力を養うもの。既に中学高校の教育課程では必修に。

新型コロナウイルス感染症予防に伴う学校の対応について

学校の長期休業に伴う学習の遅れを取り戻すことができるか
 行事の見直し、学習内容の精選と指導の工夫で、遅れを取り戻す



鈴木 和基

自由民主党田原市議員

問 休業中に与えた教材や課題へのフォローは。
答 回収した課題の内容から自主学習の取り組み状況を把握し、課題を返却する際には、児童の取り組みを認めたり改善点を気づかせたりするなど、子どもたちの意欲を高める工夫を行った。

問 子どもだけで家で過ごすことが困難な家庭への支援は。
答 自主登校教室と児童クラブ、放課後子ども教室と組み合わせて利用できるように連携を図り、保護者の困り感や不安を軽減した。

問 夏場に向け、教室に設置されたエアコンの設定温度などの運用方法は。
答 エアコンを使用する際は2方向からの換気が可能になるよう、窓やドアを開け、扇風機を併用する。エアコンの設定温度を低めにする場合もある。